



CLUB BULLETIN

R. I. 第 2530 地区

いわき勿来ロータリー・クラブ

会長 鈴木修一郎
幹事 鈴木 雅之
SAA 矢代 昭雄
会報小委員長 児玉 健二

2010～2011年国際ロータリーのテーマ

○例会日 毎週水曜日(12:30～13:30) ○事務所 いわき市植田町中央一丁目6番地の9
○例会場 ホテルミドリ 〒974-8261 ホテルミドリ内
TEL0246-62-3737

第 2385 回 例会 平成 22 年 11 月 17 日(水・雨)

ゲスト

会員卓話

濱沖 賢会員

ロータリーソング

ー今月はロータリー財団月間ですー

4つのテスト
川中 正二 会員



◎会長報告－鈴木修一郎会長

皆さん、今日は。先週10日の例会終了後理事会が開かれ、新入会員の皆さんの委員会が決定しました。根本さんの後任の馬上茂会員にはプログラム委員会に入って戴きました。スマイルボックス委員会には坂本博文会員が配属し、親睦活動委員会に嵐繁雄会員が配属、社会奉仕委員会へ佐野健会員と富澤藤利会員が配属となりました。各委員会の皆さん宜しくお願い致します。新しいクラブ編成表については前に貼ってありますのでご覧下さい。先週ロータリー財団委員会の佐藤英二小委員長さんの卓話がありました。私から少し付け加えたいお話があります。ロータリー財団はどうしても寄付をお願いしますという話が多く出て来ますが、クラブの年会費から年次寄付で1人8,000円を当クラブは寄付しております。また、それとは別にプライドベートで寄付する基金もあります。その窓口がロータリー財団となっており、そのお金が何に使われているかが大事なことだと思います。世界の健康維持、改善、教育支援、貧困救済、世界理解親善平和、国際派遣等に使われています。当クラブ独自で何か出来る事は無いかと考えた時、新しい補助金制度が出来まして自分のクラブで納めたお金が3年後に使っても良いという枠が地区に出来ました。その資金を地域で使いませんかということです。地域貢献として例えば道路標識、

植栽等に利用出来るそうです。来年当クラブは創立50周年を迎えますが、地区の資金も何かに活用して地域貢献したいと考えております。私からは以上です。

◎幹事報告－鈴木雅之幹事

- ・猪水協より水草回収報告が届いています。回覧しますのでご覧下さい。また、猪苗代湖ロータリークラブのホームページが完成したと連絡がありましたのでこちらも回覧中です。
- ・2011年国際ロータリー年次大会の案内が届いております。
- ・来週はクラブ総会で夜の例会になります。

◎各委員会報告

◇出席委員会－峯口副委員長



本日の出席状況は下記の通りです。それと富岡幸広会員へ出席奨励賞をお渡ししたいと思いますので前の方へどうぞ。おめでとうございます。



◇スマイルボックス委員会－鈴木副委員長

- ・出席奨励賞ありがとうございました。 富岡会員
- ・濱沖会員の卓話を歓迎して。 佐藤(政)、後藤、金成各会員及び渡邊公平ガバナー補佐、鈴木(修)会長、赤津会長エレクト
- ・前回例会休んでごめんなさい。

富岡、小熊、渡辺(勉)、橋本各会員

・本日早退ごめんなさい。 佐野会員

◇親睦活動委員会－佐藤政司小委員長



来週21日(日)に3クラブ親睦ゴルフコンペがあります。場所は、茨城パシフィックカントリークラブで8時40分スタートです。遅れないようにお願いします。ゴルフコンペ終了後は5時30分から金成会員の別宅で反省会がありますのでそちらだけの出席も歓迎です。ちなみに差し入れも大歓迎ですので宜しくお願いします。

◎会員卓話－濱沖 賢会員



最近よく言われていることですが、経済の回復が遅いあるいは日本経済がずっと停滞しているという新聞記事が掲載されています。紙業界もある意味環境に影響されている部分があります。今日は「紙業界から見た日本経済の実態」というものについてお話をしたいと思います。まず、日本の国民1人当たり1年間に消費する紙の量を皆さんはご存知ないとは思いますが大体250kgです。新聞用紙を1年間積み上げても数十キロにしかなりません。しかし、先進国と言われている国はおおよそ年間の1人当たりの消費量は200kg以上であることを先進国のパラメーターとしています。日本は約250kgですからヨーロッパ、アメリカと肩を並べる先進国であると言えるのですが、この約250kgに日本の人口約1億2千万の掛算をしますとどの位の量になるかということになります。計算しますと約3,000万トンになります。ダンボール、印刷用紙、トイレットペーパー等家庭用紙製品を含め約3,000万トンの消費のあるマーケットだと言うことが出来ます。単純にキロ当たり100円という計算をしてみますと3兆円のマーケットになります。約3兆円のマーケットということになりますと、日本の

GDPが約500兆円ですので割合としては少ないと感じるのですが、これは原材料の取引を何段階か行ったり、あるいは製品の取引をメーカーから代理店さんに卸し小売店さんを通りお客様に行くまで数段階ありますので3兆円ではなく10兆円から15兆円位のマーケットになるのではないかと私は思っています。その位の影響力を持っている業界です。長い間約3,000万トンの消費が維持されて参りました。バブルの崩壊、またそれ以降の失われた20年と言われた期間の間もおおよそ3,000万トンという数字がキープされておりました。ところがこの1年から2年の間で風向きが変わってきました。具体的に言うと一番大きいのがリーマンショックです。このリーマンショックの後に紙の消費量が激減しました。およそ3,000万トンだったのが昨年度平成21年度の消費量が約2,600万トンに減りました。約400万トンが失われてしまいました。この失われた400万トンが経済に与える影響は約1兆円から2兆円と言われています。この減った400万トンは3,000万トンを維持していた時にはなかなか減らすことの出来なかった分であると考えられます。平成22年度もおおよそ同じ状況で推移しています。日本全体の流れをお話致しましたが、製紙産業の中で大手と言うと王子製紙と日本製紙グループがあり2大メーカーと言われている。この2社が3分の1づつ供給し残りの3分の1を他社が供給している構図になっています。3兆円の3分の1です。約1兆円の売上高ということになります。当然減った400万トンの3分の1である約130万トンの調整をしなければならなくなりました。1口に120万トン、130万トンと言われてもイメージ出来ないと思います。具体的に言うと世界最大の製紙工場の生産量が年間100万トンです。100万トンの生産量の工場を持っているのは世界でも指折りの製紙会社です。400万トンが減ると言うことはその指折りの製紙工場が4つどこかへ吹っ飛んで行ってしまったということです。それだけ減ると原料、チップ、薬品、燃料等を縮小せざるをえないですし、販売する方も何段階かに渡り比率で縮小してしまう環境が現実の問題として現れて来ました。そういったもろもろの問題が日本経済が元氣の出ない1つの理由であると考えています。

出席状況

正会員数 56名
本日の出席率 74.00%

修正出席率 90.00%